

小学校【国語科】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

岐阜教育事務所

1 主体的・対話的で深い学び（小学校学習指導要領解説 総則編 P77一部抜粋）

- 「主体的な学び」… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、**見通しをもつて粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。**
- 「対話的な学び」… 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、**自己の考えを広げ深める。**
- 「深い学び」… 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して**考えを形成したり**、問題を見いだして**解決策を考えたり**、思いや考えを基に**創造したり**することに向かう。

2 言葉による見方・考え方（小学校学習指導要領解説 国語編）

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、**言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして**、言葉への自覚を高めること。

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善例

	【主体的な学び】	【対話的な学び】	【深い学び】
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 児童自ら本時の学びに興味や関心を持たせ、見通しを立てられるようにする。 サンプル検討やモデル検討から、自己課題を見出したり、読む視点を示したりすることで、新たな問いを立てたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師やゲストティーチャーとの対話によって、本時の学習課題や自らの問いを見出せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 深めの発問や仲間からの新しい視点の投入によって児童の認識をゆさぶり、今までにない考えを形成できるよう単位時間を仕組むようにする。
前時からのつながりや新たな問い、終末の言語活動に向けてなど、学ぶ目的の中から課題点や身に付けたいことを見出し、学習課題を設定していく。			
深める	<ul style="list-style-type: none"> 児童自ら粘り強く取り組み、取り組む視点を明確にしたり、机間指導での声かけをしたりする。 児童自ら試行錯誤しながらよりよい表現を見付けたり、分析・評価し論述したりできるようにする。 本時の学びを一般化し、児童自身のまともにつなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章との対話によって自分の考えを持てるようにする。 ペア、グループ、一斉、スクランブル等、児童の思考が働くように様々な形態で追究することで、仲間の学びのよさや新しい考えが見えるようにする。 黒板やホワイトボード、付箋等を使用したりして、着目した言葉などを視覚化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」では、記録データや以前に書いた物等と比較することで自己の変容を自覚させる。 「読むこと」では、課題を追究できたのか、初めの読みと仲間と追究した後の読みとの変容はあるかを確認する。 習得したことに何度も取り組み、身に付けた知識・技能が生きて働くものになるように単元や言語活動を設定する。
児童が自身の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、誰のどんな言葉で深まったのかという視点でも振り返られるようにする。			
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 本時学んだことを言葉で振り返り、自身の学びを自覚（発揮）できる場面を設定する。 次時への追究意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価のときには、仲間のよさを見付け、交流できるような評価の視点を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの変容を実感する自己評価や、仲間のよさを見付ける相互評価によって学びの実感を得られるようにする。

「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養